

# 管内概況



## UBEビエンナーレ

ビエンナーレとは2年に一度開かれる美術展覧会のことです。1961年(昭和36年)から始まったUBEビエンナーレ(現代日本彫刻展)は2011年秋に開催した第24回をもって50周年を迎えました。(宇部市)

## 竜王山

頂上の展望台は360度のパノラマが楽しめ、「せとうち夢海道50景」にも選ばれています。春には、1万本の桜が咲き誇り、初夏にはヒメボタルが幻想的に輝きます。(山陽小野田市)



# 一目でわかる消防統計

平成26年4月1日現在

## 管内概要 (P1~17)



管轄面積  
420.70km<sup>2</sup>



構成市  
宇部市  
山陽小野田市



人口と世帯数  
人口 235,978人  
世帯数 107,012世帯

## 総務関係 (P19~32)



職員数  
定員 298人  
実員 298人



常備消防費予算  
2,993,636千円



署所  
消防署 4署  
出張所 4所

## 予防関係 (P33~46)



防火対象物  
9,451施設



危険物施設  
1,579施設



防火クラブ  
幼年消防クラブ 17  
少年消防クラブ 8  
婦人防火クラブ 2

## 警防関係 (P47~54)



消防車  
ポンプ車等 31台  
その他車両 31台



救急車  
高規格救急自動車 11台



消防水利  
消火栓 3,540基  
防火水槽 370基

## 火災等統計関係 (P55~74)



火災件数  
火災件数 86件  
死者 4人  
負傷者 13人



救急出動  
出動件数 10,249件  
搬送人員 8,649人



救助出動  
出動件数 131件  
救助人員 92人

## 消防団関係 (P83~101)



宇部市消防団  
分団数 15分団  
団員数 651人



山陽小野田市消防団  
分団数 13分団  
団員数 422人

# 管内概況

## 1 構成市の概要

### (1) 宇部市の概要



宇部市は、本州西端の山口県の南西部に位置し、西は山陽小野田市、東は山口市、北は美祢市に接し、南は瀬戸内海に面しています。

交通環境を見ると、鉄道は山陽本線及び宇部線が東西に走り、高速道路は山陽自動車道が市の中央部を横断し、海浜部には重要港湾である宇部港があり、山口宇部空港も市街地に近い位置にあるなど、陸海空それぞれの交通環境が整っています。

気候は、温暖で、雨が比較的少ない典型的な瀬戸内海式気候で、市中央部以北の丘陵地には豊かな自然があふれ、様々な動植物が生息しています。また、南は海に面していることから、山と海の幸にも恵まれています。市街地には真締川や厚東川が流れ、貴重な水辺環境を有しています。

今日の宇部市発展の礎は、明治期以降の石炭産業の振興により築られました。

その後、我が国のエネルギーの需要構造の転換にいち早く対応し、近代的な工業都市へと変ぼうを遂げ、現在も瀬戸内有数の臨海工業地帯を形成しています。

この間、急激な工業化の進展に伴い生じた、ばいじん降下による大気汚染などの公害問題に対し、産官学民一体となった「宇部方式」による公害対策に取り組み、この環境改善を図った実績は、産業発展と市民福祉の調和を目指す先進的事例として広く知られるところとなり、平成9年(1997年)、国連環境計画(UNEP)から「グローバル500賞」を受賞し、これまでの環境の保護・改善への功績が高く評価されています。

### (2) 山陽小野田市の概要



山陽小野田市は、山口県の南西部に位置し、東は宇部市、西は下関市、北は美祢市に接し、南は瀬戸内海に面しています。

市中央部から南部の丘陵地や干拓地を中心に発達した市街地を取り囲むように里山、河川、海などの豊かな自然のほか、森と湖に恵まれた公園や海や緑に囲まれたレクリエーション施設があり、優れた自然環境に包まれています。

気候は、年間を通じて温暖で、降水量の少ない典型的な瀬戸内型気候を示し、生活環境としても産業立地上も好条件を備えています。また、市内には山陽自動車道、JR山陽新幹線厚狭駅があり、隣の宇部市には山口宇部空港があるなど、高速交通網の利便性にも富んでいます。

古くから山陽道や山陰と山陽を結ぶ交通要衝の地として栄え、古墳時代から当地を治めていた豪族がいたことを示す古墳群が分布しています。中世から近世初頭に「信濃の国から長門の国に住み着いて厚狭川に大きな堰を造って、荒地であった千町ヶ原に水路を引き、美田をつくった」という大工事がなされていますが、公的な記録には、いつ誰によって築かれたのか、発見されておらず、ここから「厚狭の寝太郎」伝説が誕生したとされています。

江戸時代には石炭産業が盛んになり、明治期以降、日本初の民間セメント会社が創立されるなど、窯業・化学工業を中心に工業の街として発展してきました。この窯業の歴史を踏まえて、平成15年(2003年)、きららビーチ焼野にガラス工房がオープンし、全国レベルの現代ガラス展なども開催されています。

## 2 構成市の位置図



	人口(人)	世帯数	面積(km <sup>2</sup> )	市の木	市の花
宇 部 市	171,220	78,553	287.71	クスノキ	サルビア ツツジ
山陽小野田市	64,758	28,459	132.99	クロガネモチ	ツツジ
計	235,978	107,012	420.70	—	—

平成26年4月1日現在

### 3 消防の沿革

#### (1) 宇部市消防の沿革

(西暦) 年 月 日	沿 革
1921年 大正10年 1月 1日	村から一躍市政を施行。消防組織は消防組と称し、市域を4部に分け、各部32人をもって組織し、腕用ポンプを配備
1931年 昭和 6年	藤山村と合併し、消防組の組織が拡充強化
1939年 昭和14年 4月 1日	消防組を警防団に改名し、市域を11分団、各250人程度に編成
1941年 昭和16年	厚南村と合併し、消防組の組織が拡充強化
1943年 昭和18年	西岐波村と合併し、消防組の組織が拡充強化
1944年 昭和19年 3月 24日	宇部市小串通り渡辺翁記念会館内に山口県宇部消防署が設置(勅令第137号特設消防規定に基づく)され、防府市と山口市にその出張所を設置
1947年 昭和22年 9月	終戦による警防団の解散に伴い、新たに11分団定員419人の消防団が結成
1947年 昭和22年 12月 23日	消防組織法が公布され、従来の官設消防は、警察から分離して民主的な自治体消防として発足
1948年 昭和23年 3月 7日	消防組織法の施行に伴い、宇部市消防本部を宇部市常盤通り一丁目宇部市役所内に設置し、宇部市消防署は従前どおり渡辺翁記念会館内に存置して、自治体消防として新発足 また、防府、山口両市の出張所は宇部消防署の管轄を離れ、人員機材をそのままに両市自治体消防として発足
1948年 昭和23年 7月 24日	消防法が公布され、消防業務は従来の水火災の防御鎮圧分野から大きく進展し、火災予防、原因の調査、建築許可等の同意、危険物の取締等の消防行政に画期的な職権が付与
1950年 昭和25年 9月 16日	宇部市消防本部を渡辺翁記念会館内(宇部市消防署と同一箇所)に移転
1954年 昭和29年 10月 1日	厚東、二俣瀬、小野、東岐波の4村が合併
1956年 昭和31年 11月	消防団の機構改革を行い、11個分団、600人に統合
1960年 昭和35年 9月 1日	宇部市消防本部及び宇部市消防署を常盤町二丁目、郵便局庁舎北隣の新庁舎に移転

(西暦) 年 月 日	沿 革
1963年 昭和38年 9月10日	消防法の一部改正により、救急業務が制度化され、救急車1台を配備して、救急隊を編成
1970年 昭和45年 11月	宇部市消防団の事務局を市長部局から消防本部総務課へ移管
1977年 昭和52年 4月 1日	阿知須町から同町の救急業務に関する事務を受託
1977年 昭和52年 4月 1日	宇部市消防本部消防職員共済会設立
1978年 昭和53年 4月18日	厚南中野に厚南消防出張所を建築、業務を開始し、職員定数を97人に増員
1980年 昭和55年 4月 1日	西岐波西大道に東部消防出張所を建築、業務を開始し、職員定数を124人に増員
1982年 昭和57年 12月 6日	山口宇部空港内に空港分遣所を設置
1988年 昭和63年 3月31日	山口宇部空港内の空港分遣所を廃止
1989年 平成 元年 1月19日	宇部市消防本部及び宇部市消防署を港町二丁目の新庁舎に移転し、消防緊急情報システムを導入
1990年 平成 2年 11月30日	高齢化社会に伴い、緊急時の通報として宇部市緊急通報システムを構築し、集中管理センターを消防本部通信指令室に設置
1991年 平成 3年 8月 7日	救急救命士養成のため、救急救命中央研修所に職員を派遣
1992年 平成 4年 11月 6日	救急救命士及び高規格救急自動車による高度処置救急隊の運用開始
1995年 平成 7年 4月 1日	二俣瀬に北部消防出張所を建築、業務を開始し、職員定数を161人に増員
1995年 平成 7年 8月 1日	宇部地区地震連絡協議会を設立(同年7月31日)し地震発生情報伝達システムの運用を開始
1996年 平成 8年 4月 1日	消防の充実強化を図るため、職員定数を164人に増員
1996年 平成 8年 10月 1日	宇部市消防職員委員会設置
1997年 平成 9年 4月 1日	消防の充実強化を図るため、職員定数を170人に増員
1998年 平成 10年 4月 1日	西部消防出張所を西消防署に昇格し、職員定数を176人に増員
1999年 平成 11年 10月 1日	消防緊急通信指令施設更新

(西暦) 年 月 日	沿 革
2000年 平成12年 4月 1日	消防の充実拡充強化を図るため、職員定数を184人に増員し通信指令部門を通信指令課として独立
2000年 平成12年10月 1日	阿知須町から同町の消防業務を受託し、業務開始
2002年 平成14年 4月 1日	中央消防署に救助係を設置
2002年 平成14年10月16日	中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練を、阿知須町きらら浜で実施
2003年 平成15年 8月 1日	救命率向上を図るため、山口大学医学部付属病院と相互協力し、救急車医師同乗システム（通称:ドクターカー）運用開始
2004年 平成16年11月 1日	楠町との合併により楠消防出張所を開設し、1本部、2消防署、3出張所、職員定数を194人とした。 また宇部市消防団の定数を宇部消防団560人、楠消防団180人とした。
2007年 平成19年 3月 1日	高規格救急自動車1台を導入し、保有する7台全ての救急車の高規格化が完了
2007年 平成19年 4月 1日	宇部消防団に方面隊を組織し、定数520人に変更
2008年 平成20年 5月30日	宇部市危険物安全協会と宇部市防火協会を統合し、宇部市防災協会を設立
2009年 平成21年10月31日	山口市阿知須区域の事務受託を廃止
2011年 平成23年 3月14日	緊急消防援助隊（車両4台、13人）を東日本大震災の被災地へ派遣

(2) 小野田市消防の沿革

(西暦) 年 月 日	沿 革
1898年 明治31年 2月	須恵村に公設消防組を設置
1908年 明治41年 9月	高千帆村に公設消防組を設置
1939年 昭和14年 4月15日	小野田・高千帆両町の消防組を警防団に改名
1940年 昭和15年11月 3日	小野田町と高千帆町が合併して小野田市となり、両町の警防団は小野田市警防団と再編
1947年 昭和22年 6月27日	小野田市消防団を結成し、団本部と8個分団を編成、450人の組織を設置
1948年 昭和23年12月 1日	市役所社会課内に小野田市消防本部を設置
1949年 昭和24年 5月 1日	小野田市大字小野田5993番地へ消防本部を設置し、当市消防行政は市の一般行政から独立、消防職員の定数は消防長以下5人で、消防業務を開始
1950年 昭和25年 4月 1日	小野田市消防団員の定員を450人から275人に改正
1951年 昭和26年 1月18日	消防団第2分団の水上部を独立させ、水上分団を設置
1951年 昭和26年 8月 3日	市長、消防長、団長、市議会議員4人、一般有識者10人により消防委員会を設置
1955年 昭和30年 5月30日	高松宮殿下を迎え、消防自動車80台、消防職団員3,000人による山口県消防機関連合訓練大会を挙行
1963年 昭和38年 3月 9日	小野田市大字小野田5896番地の1に消防本部・署庁舎を新築移転
1963年 昭和38年 4月 1日	小野田市危険物安全協会を設立(10事業所)
1964年 昭和39年12月11日	非常災害連絡用として消防無線局を開局 ・基地局(10W 1基) ・陸上移動局(10W 3基) ・携帯陸上移動局(1W 2基)
1965年 昭和40年10月 1日	救急業務を開始
1970年 昭和45年12月 1日	小野田市化学消火剤共同備蓄会を設立(34事業所)
1977年 昭和52年10月17日	大型化学消防自動車、大型高所放水車、泡原液搬送車を配置 仮眠室及び車庫を増築
1978年 昭和53年12月 5日	一斉指令装置を設置



(西曆) 年 月 日	沿 革
1981年 昭和56年 1月 6日	ホース乾燥塔、テレビ監視装置設置、庁舎増築
1983年 昭和58年 7月 1日	機構改革により、新たに予防課を設置、総務課に消防団係を設置
1985年 昭和60年 6月 1日	石井手保育園に幼年消防クラブを結成、以後6保育園がクラブを結成
1985年 昭和60年 7月19日	刈屋婦人防火クラブを結成
1985年 昭和60年 9月 1日	小野田市防火委員会を結成
1987年 昭和62年11月11日	全国消防長会危険物委員会を開催
1990年 平成 2年 5月23日	山口県消防大会を開催
1992年 平成 4年 4月 1日	女性消防団員10人を採用
1993年 平成 5年 4月 1日	消防職員定数を54人から57人に増員
1995年 平成 7年 9月 1日	県下初の地震を想定した山口県総合防災訓練を実施
1995年 平成 7年10月24日	山口県幼年消防大会を開催
1996年 平成 8年 4月 1日	高規格救急自動車を新規配備し高度救急業務を開始
1997年 平成 9年 3月26日	耐震性貯水槽(100t)新設、以後市街地に9基設置
1999年 平成11年 3月25日	消防緊急通信指令施設(I型)が完成
1999年 平成11年 4月 1日	小野田市高栄一丁目6番1号へ消防本部・消防署庁舎を新築移転し、供用開始(本庁舎:鉄筋コンクリート一部鉄骨造2階建)
1999年 平成11年 7月 1日	きららビーチ完成に伴い、消防署に水難救助隊を設置
2000年 平成12年 1月20日	消防訓練塔完成(主塔:H=17.5m、補助塔:3階建)
2000年 平成12年 3月29日	化学消火薬剤備蓄タンク(20k1)及び消火薬剤倉庫が完成
2000年 平成12年 6月 8日	山口県危険物安全大会を開催
2002年 平成14年 3月27日	小野田市消防団が地域活動功労による消防庁長官表彰を山口県で初受賞
2002年 平成14年10月17日	全国消防長会予防委員会を開催
2005年 平成17年 3月21日	小野田市消防委員会を廃止

(3) 山陽町消防の沿革

(西暦) 年 月 日	沿 革
1948年 昭和23年 8月	厚狭町消防本部を設置
1956年 昭和31年 9月	厚狭町と埴生町が合併し山陽町となり、山陽町消防本部を設置
1963年 昭和38年 1月	山陽町危険物安全協会を設立
1971年 昭和46年 4月	楠町と救急業務に関する事務委託協定を締結
1973年 昭和48年 6月	山陽地区消防組合を設立(許可番号:指令地方第327号) 山陽町と楠町で消防に関する事務を共同処理
1974年 昭和49年10月	楠出張所開設、職員6人、消防ポンプ車、救急車、連絡車の3台配備し業務開始。埴生出張所(旧埴生消防事務室)も職員5人で開設し、消防団消防ポンプ自動車を管理
1974年 昭和49年12月	山陽署車庫を増築
1981年 昭和56年 4月	埴生出張所完成、職員7人、水槽付消防ポンプ車、救急車、連絡車の3台を配備
1984年 昭和59年 2月	山陽署車庫を増築
1993年 平成5年 3月	消防緊急通信指令施設(I型)を設置
1993年 平成5年 7月	消防組合発足20周年記念式典を開催
1994年 平成6年 3月	消防用無線中継局を松嶽山に開局
1994年 平成6年11月	山陽署事務室等増築
2000年 平成12年 8月	山口県総合防災訓練を実施
2002年 平成14年 4月	高規格救急自動車を山陽消防署に配備し高度救急業務開始
2003年 平成15年 6月	山口県危険物安全大会を開催
2004年 平成16年 4月	職員8人を(内3人救急救命士)採用し実員64人に増員
2004年 平成16年 5月	山口県消防大会を開催
2004年 平成16年10月31日	組合構成団体の楠町が宇部市と合併、山陽地区消防組合を解散
2004年 平成16年11月 1日	山陽町消防本部を設立 1本部1署1出張所、消防職員54人で業務開始

(4) 山陽小野田市消防の沿革

(西暦) 年 月 日	沿 革
2005年 平成17年 3月22日	小野田市と山陽町の合併により、山陽小野田市が誕生したことに伴い、常備消防は、2消防本部が統合して山陽小野田市消防本部（山陽小野田市高栄一丁目6番1号）が発足、1本部2署1出張所、条例定数110人の消防職員による消防体制で消防業務を開始 一方、非常備消防も2市町の消防団が統合し、1団本部、22分団、条例定数503人による消防団組織を編成
2005年 平成17年 9月17日	山口県消防操法大会応急小型ポンプの部において埴生連合分団が初優勝及び応急自動車ポンプの部において高千帆分団が準優勝
2006年 平成18年 3月20日	消防緊急通信指令システム（I型）を更新
2006年 平成18年 5月28日	消防学校フェスタで従来の幼年消防クラブ大会に替えて、本市引受けによるちびっ子防火フェアを開催
2006年 平成18年10月 1日	女性消防団員を6人新たに採用、女性消防団員16人
2007年 平成19年 4月 1日	山陽小野田市消防団は合併協定事項に基づき、小学校区を基本に統合、合併当時の22個分団を13個分団に再編し、消防団員定数も503人から485人に改正、業務開始
2007年 平成19年 4月12日	出合分団及び厚陽分団の車庫完成に伴い、分団車庫引渡披露式を実施
2007年 平成19年 9月15日	山口県消防操法大会応急操法小型ポンプの部において厚狭北分団が優勝
2008年 平成20年 3月18日	厚狭北分団の車庫完成に伴い、分団車庫引渡披露式を実施
2011年 平成23年 3月14日	緊急消防援助隊（車両2台、5人）を東日本大震災の被災地へ派遣

(5) 宇部・山陽小野田消防組合の沿革

(西暦) 年 月 日	沿 革
2008年 平成20年 5月	山口県は、消防組織法の一部を改正する法律(平成18年法律第64号)及び市町村の消防の広域化に関する基本指針(平成18年7月12日消防庁告示第33号)を受け「山口県消防広域化推進計画」を策定
2009年 平成21年11月20日	宇部市と山陽小野田市は、市街地や石油コンビナートが一体化しさらに都市形態も類似しているため、効果的かつ効率的な消防体制の構築が図られると考え、「宇部市・山陽小野田市消防広域化検討委員会」を設置し、消防の広域化について検討を開始
2009年 平成21年11月20日	第1回宇部市・山陽小野田市消防広域化検討委員会開催
2010年 平成22年 2月13日	第2回宇部市・山陽小野田市消防広域化検討委員会開催
2010年 平成22年 5月20日	第3回宇部市・山陽小野田市消防広域化検討委員会開催
2010年 平成22年 8月11日	第4回宇部市・山陽小野田市消防広域化検討委員会開催
2010年 平成22年10月15日	第5回宇部市・山陽小野田市消防広域化検討委員会開催
2010年 平成22年11月15日	第6回宇部市・山陽小野田市消防広域化検討委員会開催
2011年 平成23年 1月 4日	宇部市と山陽小野田市は、両市の消防広域化に係る広域消防運営計画の作成及びこれに附帯する事務を共同して行うため、「宇部市・山陽小野田市消防広域化協議会」を設置
2011年 平成23年 2月16日	第1回宇部市・山陽小野田市消防広域化協議会開催
2011年 平成23年 3月29日	第2回宇部市・山陽小野田市消防広域化協議会開催
2011年 平成23年 5月31日	第3回宇部市・山陽小野田市消防広域化協議会開催
2011年 平成23年 6月29日	第4回宇部市・山陽小野田市消防広域化協議会開催
2011年 平成23年 7月20日	第5回宇部市・山陽小野田市消防広域化協議会開催
2011年 平成23年 8月 1日	第6回宇部市・山陽小野田市消防広域化協議会開催
2011年 平成23年10月20日	第7回宇部市・山陽小野田市消防広域化協議会開催
2011年 平成23年10月20日	宇部市・山陽小野田市広域消防運営計画を策定

(西暦) 年 月 日	沿 革
2011年 平成23年 11月30日	山口県知事から、宇部市及び山陽小野田市の両市長に「宇部・山陽小野田消防組合」の設置許可書が交付される。※宇部・山陽小野田消防組合発足（平成18年の消防組織法改正後に消防が広域化されるのは、全国で7番目、県内では初の取り組み）
2012年 平成24年 2月20日	第1回宇部・山陽小野田消防組合議会 定例会開催
2012年 平成24年 3月30日	宇部市・山陽小野田市消防広域化協議会 廃止
2012年 平成24年 4月 1日	「宇部・山陽小野田消防局」が発足し、1本部4署4出張所 定員298人で消防業務を開始
2013年 平成25年 3月28日	山陽小野田市大字厚狭487番地9へ山陽消防署を新築移転し、竣工式を挙げる
2014年 平成26年 3月 2日	高機能消防指令センター及び消防救急デジタル無線の運用開始

## 4 過去の主な災害等

### (1) 宇部・山陽小野田地区における自然災害

年月日	内容	被害概要	
		宇部市	山陽小野田市
S17年 8月27日	周防灘台風により高潮が発生、市内堤防が相次いで決壊し市街地及び低地に海水が浸水し、甚大な被害をもたらした。	死者232人、行方不明65人、負傷者118人、家屋全壊71戸、家屋流出472戸、家屋半壊643戸、浸水5,082戸	(小野田市)死者141人、行方不明3人、負傷者27人、家屋全壊195戸、家屋流出96戸、家屋半壊985戸、床上浸水509戸、船舶流失350艘
S28年 6月25日 ～6月29日	九州山口を豪雨が襲い、約5日間にわたる記録的な大雨となり、大きな被害をもたらした。	死者1人、家屋全半壊29戸、浸水3,707戸、真締川堤防3か所決壊、13鉱完全水没、	(小野田市)死者2人、重傷者1人、家屋全半壊44戸、家屋流出1戸、床上浸水179戸、道路決壊30ヶ所、橋梁流出4箇所(山陽町)厚狭川決壊、死者6人、負傷者5人、家屋全半壊19戸、床上浸水1,503戸
H3年 9月27日	台風第19号は、中心気圧945hpa、最大風速45m/sの大型台風で、大きな被害をもたらした。	死者1人(太陽熱温水器落下による)、重傷者3人、軽傷者8人、家屋半壊41戸	(小野田市)負傷者7人、家屋全壊1戸、家屋半壊10戸、床上浸水1戸 (山陽町)家屋全壊2戸、家屋半壊1戸、床上浸水11戸、床下浸水23戸
H11年 9月24日	台風第18号は、中心気圧950hpa、最大風速45m/sの大型台風で竜巻、高潮による大きな被害をもたらした。	重傷者4人、軽傷者7人、家屋全壊13戸、家屋半壊536戸、床上浸水241戸、床下浸水3,408戸	(小野田市)重傷者12人、軽傷者70人、家屋全壊17戸、家屋半壊118戸、西部石油沖護岸決壊、床上浸水83戸 (山陽町)負傷者5人、住宅全壊32世帯、半壊421世帯、非住居の被害215戸、救出者21人
H21年 7月21日 ～7月26日	梅雨前線に伴う集中豪雨(平成21年7月中国・九州北部豪雨)のため、河川の氾濫等により多くの水害をもたらした。	家屋半壊4戸、床上浸水42戸、床下浸水20戸	床上浸水44戸、床下浸水221戸、救助出動9件、救助人員49名
H22年 7月15日	梅雨前線の停滞に伴う集中豪雨による厚狭川等の氾濫のため、山陽地区において多くの水害をもたらした。	家屋半壊1戸、家屋一部損壊8戸、床上浸水2戸、床下浸水60戸	家屋半壊8戸、床上浸水446戸、床下浸水351戸、救助人員92名(宇部・光・岩国消防応援隊救出を含む)

(2) 宇部市の主な火災記録

発生日	住 所	原因・焼損程度・損害額等
S20. 7. 2	宇部市内	B 2 9 爆撃機による空襲 4, 9 5 3 戸全焼 罹災世帯 2 3, 4 1 3 世帯 死者 3 3 6 人 負傷者 5 9 1 人
S25. 2. 18	常盤町二丁目	百貨店から出火 建物 7 棟焼損 (1, 4 0 4 m <sup>2</sup> ) 損害額 2 1, 9 8 9 千円
S28. 3. 2	梶返	中学校から出火 建物 4 棟焼損 (5, 6 9 0 m <sup>2</sup> ) 負傷者 6 人 損害額 7 0, 0 0 0 千円
S30. 11. 20	小串	病院から出火 建物 1 棟全焼 (2, 5 0 7 m <sup>2</sup> ) 損害額 2 4, 7 1 7 千円
S34. 7. 11	大字藤曲	化学工場が爆発 建物 1 棟 (5 6 0 m <sup>2</sup> ) 死者 1 1 人 負傷者 3 8 人 損害額 2 5 0, 0 0 0 千円
S36. 4. 1	川上(男山)	山林から出火 3 日間延焼 4 6 2 h a 焼失 損害額 3 7, 5 8 2 千円
S37. 10. 29	大字上宇部	高等学校から出火 建物 4 棟焼損 (9 9 9 m <sup>2</sup> ) 損害額 2, 7 0 4 千円
S40. 3. 19	東海岸通り二丁目	木工所から出火 建物 1 2 棟焼損 (1, 7 8 8 m <sup>2</sup> ) 罹災世帯 1 9 世帯 負傷者 2 人 損害額 3 0, 5 0 6 千円
S43. 6. 12	中央町三丁目	家具百貨店から出火 建物 1 8 棟焼損 (2, 6 5 8 m <sup>2</sup> ) 罹災世帯 2 6 世帯 負傷者 2 人 損害額 9 3, 4 5 8 千円
H 元. 12. 7	新天町二丁目	物品販売店舗から出火 建物 1 棟全焼 (4, 0 6 8 m <sup>2</sup> ) 罹災世帯 3 世帯 負傷者 3 人 損害額 5 1 0, 7 7 6 千円

(3) 旧小野田市の主な火災記録

発生日	住 所	原因・焼損程度・損害額等
S26. 6. 6	くし山中	小学校から出火 校舎 2 棟全焼 (9 1 9 m <sup>2</sup> ) 損害額 7, 0 4 8 千円
S30. 3. 7	北栄町	映画館から出火 建物 1 棟全焼 (6 5 9 m <sup>2</sup> ) 損害額 5, 0 5 0 千円
S33. 4. 8	くし山東	高等学校から出火 校舎 1 棟全焼 (3 4 7 m <sup>2</sup> ) 損害額 1, 7 0 0 千円
S34. 11. 13	第一日の出町	パチンコ店から出火 建物 3 棟全焼 (2 9 2 m <sup>2</sup> ) 罹災世帯 1 2 世帯 罹災人員 4 1 人 損害額 1 6 8, 2 9 8 千円
S53. 4. 9	北真土郷	林野から出火 焼損面積 2 7 h a 損害額 2 4, 0 0 3 千円
S56. 7. 7	西沖	石油精製工場(動力管理室から出火) 建物 1 棟部分焼 損害額 1 7, 1 3 0 千円(原因は落雷) 負傷者 1 人
S59. 2. 28	丸河内一区	電気製品の倉庫から出火 建物 1 棟全焼 (8 6 9 m <sup>2</sup> ) 損害額 1 3 4, 4 1 0 千円
S60. 6. 23	南真土郷	樹脂工場から出火 建物 1 棟全焼 (6 6 0 m <sup>2</sup> ) 損害額 1 5 1, 6 7 5 千円

発生日	住 所	原因・焼損程度・損害額等
S63. 4. 26	平和町	専用住宅から出火 建物20棟を全半焼(1,486㎡) 罹災世帯25世帯 罹災人員63人 損害額 347,974千円
H11. 9. 7	小野田港	製鋼工場から水蒸気爆発が発生 熔融金属が飛散し出火建物は爆発により損壊したが、火災による損害はスクラップのみ

(4) 旧山陽町の主な火災記録

発生日	住 所	原因・焼損程度・損害額等
S25. 5. 15	火薬町	化学工場内の廃酸分解から出火 建物3戸全焼(298坪) 損害額 100,000千円 半焼1戸 死者3人
S26. 6. 7	本町1	映画館から出火 映画館(200坪)を全焼 半焼5戸 損害額 8,750千円 罹災世帯6世帯
S35. 2. 20	山陽本線	山陽本線厚狭埴生駅間「さくら」の電源車から出火 損害額31,320千円
S40. 3. 21	保戸	山林から出火 山林13.8ha焼失 損害額 2,202千円
S42. 6. 4	大持	山林から出火 再燃で延べ4日間にわたり延焼 損害額 6,291千円、山林18.4ha焼失
S43. 4. 30	大持	山林から出火 山林10.3ha焼失 損害額 458千円
S45. 1. 16	殿町3	小学校校舎(木造2階建)から出火 校舎半焼(542㎡) 損害額 2,634千円
H15. 11. 8	浜崎	「まつり山陽」前夜祭花火大会において花火の爆発事故 損害額 94千円 死者2人 重症1人 軽症1人

(5) 山陽小野田市の主な火災記録

発生日	住 所	原因・焼損程度・損害額等
H17. 10. 24	新沖二丁目	発電所のベルトコンベアーから出火 損害額 47,806千円



## 5 応援協定等締結状況

協定の名称		締結先機関	締結年月日	
1	山口県内広域消防相互応援協定	山口県内全域の市町及び消防組合	H24. 4. 1	
2	中国自動車及び山陽自動車道における消防相互応援協定	下関市・美祢市・山陽小野田市・宇部市 山口市・防府市・周南市・下松市・光市 光地区消防組合・岩国市・岩国地区消防組合	H24. 4. 1	
3	県道山口宇部線における消防相互応援協定	山口市・宇部市	H24. 3. 28	
4	石油コンビナート等特別防災区域に係る消防相互応援協定	岩国地区消防組合・下松市・周南市・下関市	H24. 4. 1	
5	「母体・新生児救急搬送マニュアル」に係る救急業務相互応援協定	下関市・山口市・萩市・防府市・下松市・長門市 周南市・柳井地区広域消防組合・美祢市 光地区消防組合・岩国地区消防組合	H24. 4. 1	
6	山口県消防防災ヘリコプター応援協定	山口県・山口県内全域の市町及び消防組合	H24. 4. 1	
7	船舶消火に関する業務協定	宇部海上保安署	H24. 4. 1	
8	山口県宇部空港及びその周辺における消火救援活動に関する協定	山口宇部空港	H24. 4. 1	
9	ガス漏れ及び爆発事故等の防止対策に関する申し合わせ	都市ガス	山口合同ガス(株)宇部支店	H26. 4. 1
		LPガス	山口県LPガス協会宇部小野田支部 山口県LPガス協会厚狭支部	H24. 4. 1
10	救急車医師同乗システムに関する協定	山口大学医学部附属病院	H24. 4. 1	
11	気管挿管実習に係る協定	山口大学医学部附属病院	H24. 4. 1	
12	宇部・山陽小野田消防局地域における医療救護活動に関する協定	山口大学医学部附属病院	H24. 4. 1	
		宇部興産株式会社中央病院		
		山口労災病院		

